

第1学年 音楽科学習指導案

ろ組 男子 20名 女子 20名 計 40名
指導者 本田 康 幸

1 題材 りずむであそぼう

教材 なまえあそび

「じゃんけんぽん」 芙龍明子 作詞 橋本祥路 作曲
「けんけんぱ」 石桁冬樹 作詞作曲
「てをたたきましょう」 小林純一 作詞 作曲者不明
「ぶんぶんぶん」 村野四郎 作詞 ボヘミア民謡
「かたつむり」 文部省唱歌

◎「しろくまのじえんか」 平井多美子 作詞 ケン ウォール 作曲

2 題材について

(1) 題材の位置とねらい

これまでに子どもたちは、入学以前から、体を動かしながら歌ったり簡単なリズム楽器を使って演奏したりする活動を通して、音楽に合わせて歌うことや体を動かしながら歌うことの楽しさを味わってきている。さらに子どもたちは、友だちといっしょに合わせたり歌詞の情景に合わせて動きをつけたりしながら歌おうとする欲求が高まってきている。

そこで、ここでは、歌に合わせてリズム打ちをしたり、情景に合わせて体の動きを工夫しながら表現したりする活動を通して、拍の流れに合わせて表現したり鑑賞したりする能力を育てるとともに、友達とリズムを合わせることに関心をもち、体を動かしながら拍の流れを感じ取ってリズムよく表現するための工夫をする能力を高めることをねらいとして、本題材「りずむであそぼう」を設定した。

ここでの学習は、2拍子や3拍子を感じ取りながら歌ったり、歌に合わせてリズム伴奏をしたりする能力を育てる題材「りずむであそぼう2」の学習へと発展していくこととなる。

(2) 指導の基本的な立場

拍の流れに合わせて表現したり鑑賞したり能力を高めるには、教師や友達の演奏をよく聴いて、音楽を形づくっている要素に気を付けながら、繰り返しリズム唱やリズム打ちに親しむことが効果的である。特にこの期の子どもたちには、拍の流れを手や足、体全体で感じ取りながら表現を追求できるようにすることが大切である。

具体的には、まず、「なまえあそび」の活動に取り組みさせる。この活動は、〇〇〇・のリズムフレーズを基にしてリズム模倣遊び等を十分に経験することができるものである。そこで、ここでは、子どもの名前や果物の名前によるリズム模倣遊びを通して、拍の流れを感じ取りながらリズムフレーズを演奏する楽しさを味わえるようにする。

次に、「じゃんけんぽん」や「けんけんぱ」を取り上げる。これらの楽曲は、拍の流れに合わせて身振りを付けたり体を動かす遊びを入れたりして歌うことができる。そこで、ここでは、体を動かしながら歌ったりタイミングを合わせて調子よく体を動かしながら歌ったりする楽しさを味わえるようにする。

さらに、「てをたたきましょう」を取り上げる。この楽曲は、情景に合わせて体を動かしながら分割リズムを感得することができる。そこで、ここでは、手拍子や足踏みをする活動を通して歌いながらリズムよく表現する楽しさを味わうことができるようにする。

さらに、「ぶんぶんぶん」や「かたつむり」を取り上げる。これらの楽曲は、同じようなリズムフレーズが繰り返され、強拍を感じ取りやすい楽曲であるとともに、身近な生き物を取り上げているため情景を想像しやすい。そこで、ここでは、手拍子や打楽器でのリズム打ちや動物を想像して歌う活動を通して、リズムよく情景に合わせて歌い方を工夫する楽しさを味わえるようにする。

最後に、「しろくまのじえんか」を取り上げる。この楽曲は、強拍と弱拍が明確であり、拍の流れを感じ取りやすい楽曲である。そこで、ここでは、○・○・○○○・のリズムフレーズに合わせて、友だちと一緒にジェンカのステップを踏みながら踊ることで、強拍や弱拍を意識させながら拍の流れを体全体で感じ取る楽しさを味わえるようにする。

このような学習を通して、子どもたちは、体を動かしながら音楽のよさや面白さ、美しさを味わい、リズムを中心とした音楽を形づくっている要素の働きを感じ取りながら表現したり鑑賞したりすることへの関心・意欲を高め、楽しく音楽とかかわっていきこうとする態度を養うことができる。

(3) 子どもの実態（調査対象 1年ろ組 男子20名 女子20名）

本学級の子どもたちの実態は次の通りであった。

① 音楽に合わせて手合わせ遊びをしたり、じゃんけん遊びをしたりするのは楽しいですか。
はい(31) いいえ(9)
② その理由を教えてください。(複数回答)
【「はい」の理由】 ・体を動かすのがとにかく楽しい(28) ・ともだちと遊ぶのが楽しい(25) ・音楽によって動ける(3)
【「いいえ」の理由】 ・リズムを間違ってしまうから(7) ・覚えられないから(3) ・合わないのが気になるから(2)
③ 体を動かしながら歌ったり音楽を聴いたりするときもは、どんなことに気を付けていますか。(複数回答)
・みんなとリズムが合うようにしている(18) ・動きが合うようにしている(12) ・先生や友達の動きをまねする(17) ・無回答(8)
④ 話し合って決めた動きで体を動かしながら「さんぽ」を歌いましょう。
できる(36) できない(4)
⑤ 「さんぽ」に合わせて○・○・○○○・のリズムをリズム打ちしましょう。(教師の模範無し)
・拍の流れに合わせてできる(32) ・拍の流れに合わせてできない(8)

①②から、子どもたちの多くが歌に合わせて手合わせ遊びをしたりじゃんけん遊びをしたりすることに楽しさを感じている。一方で、楽しくないと答えた子どもたちは、リズムのずれを感じ取っているためリズムを覚えて周りと合わせることへの不安を挙げられている。そこで、自信をもって取り組むことができるようにテンポをゆっくりから始めたり、教師も一緒にリズム打ちをしたりする必要がある。また、友達と向かい合わせになりリズムフレーズの模倣をするなどの活動を取り入れ、拍の流れに合わせて演奏したり歌ったりする楽しさを味わえるようにしたい。

③から、リズムを基に、体の動きを工夫しようとする子どもたちが多く見られるが、**速さや旋律の感じ、強弱などに気を付けようとする子どもは少ない**。そこで、音楽をよく聴いて、音楽を形づくっている要素に気付くことができるようにしていく必要がある。

④⑤から、教師や友達と合わせて動きを入れていくと拍の流れを感じ取って表現したり鑑賞したりすることができるが、模範無しで行うと一定の速さで表現できなくなり後半部分のリズムが変わってしまうことが分かる。それは、聴くだけでは、短いリズムパターンは覚えられるが、違うパターンが含まれると覚えられないことが理由であると考えられる。そこで、教師の動きを模倣する活動を多く取り入れたり、リズムフレーズを絵譜で示すなど視覚的にとらえさせたりする必要がある。

(4) 指導上の留意点

以上のようなことをふまえて、指導に当たっては次のようなことに留意したい。

- ア 遊び歌のよさや面白さを実感することができるように、**実際に遊んでいる様子を提示したり、どのような場面で生かすかを話し合う場を設定する。**
- イ 子どもたちが、体を動かすことに終始せず音楽を形づくっている要素とそこから醸し出されるよさや面白さ、美しさを感じ取って表現したり鑑賞したりすることができるように、**表現の意図や思いについて話し合う場を設定する。**
- ウ 子どもたちが拍の流れを感じ取って表現したり鑑賞したりすることができるようにリズム模倣遊びの活動を取り入れたりいろいろな速さで表現する活動を取り入れるようにする。

3 目 標

- (1) 友達とリズムを合わせることに興味をもち、リズムが合っているか振り返りながら、進んで活動に取り組むことができる。
- (2) 体を動かしながら、リズムよく表現したり鑑賞したりするための工夫をすることができる。
- (3) 拍の流れを感じて歌やリズムフレーズを表現したり体を動かしながら鑑賞したりすることができる。

4 指導計画（全7時間）

過 程	時	教材	主 な 学 習 活 動	教師の働きかけ
課題把握 課題追求Ⅰ	1	なまえあそび	<p>なまえあそびをしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ りずむのまねっこあそびをする。 ・名前や果物の名前でリズムリレーをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「○○○・」に多様なリズムを当てはめられるように、2～4文字の果物を例示する。 ○ 歌詞と動きを関連付けながら活動できるように模倣をする活動を取り入れる。
課題追求Ⅱ	2・3 (本時)	「じゃんけんぽん」「けんけんぱ」	<p>じゃんけんをしながらうたおう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 主旋律の聴唱をする。 ○ 歌詞の内容と体を動かす活動とを結び付けながら、じゃんけん遊びをする。 <p>けんけんぱをしながらうたおう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 範唱を聴いて話し合う。 ○ 主旋律の聴唱をする。 ○ 「～のまねして」のところは動物のまねを工夫して歌う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 遊び歌を生活に生かすことができるように、生かす場面を例示する。 ○ 動物のまねで、イメージを膨らませることができるように写真や映像を提示する。
課題追求Ⅲ	4・5・6	「てをたたきましよう」「ぶんぶんぶん」「かたつむり」	<p>うたにあわせてりずむをうたおう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 主旋律の聴唱をする。 ○ リズム譜を見ながらリズム唱をしたり手拍子を打ったりする。 <p>はちさんのようすをおもいうかべてうたおう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 主旋律の聴唱をする。 ○ リズム譜を見ながら打楽器や手拍子でリズム打ちをする。 <p>かたつむりさんのようすをおもいうかべてうたおう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 主旋律の聴唱をする。 ○ リズム譜を見ながらリズム唱をしたり、手拍子を打ったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 拍の流れにのってリズム打ちができるように、ひざうちや手合わせを教師や友だちと行うようにする。 ○ 分割リズムが感得できるように視覚的にとらえやすい絵譜を準備する。 ○ 思いや意図をもって表現できるように、発表させる際には、動きについての意図を話し合う場を設定する。 ○ かたつむりの様子を思い浮かべられるように、見たり、触ったりした経験について話し合う場を設定する。
課題追求Ⅳ	7	「しろくまのじえんか」	<p>からだをうごかしながらしろくまのじえんかをきこう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「しろくまのじえんか」を聴いてリズムの繰り返しについて話し合う。 ○ 4～5人のグループをつくって、ジェンカをおどる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 拍の流れに合わせて踊るよさや面白さに気付かせるために、人数を徐々に増やしたり表現できる速さから取り組んだりする。 ○ 音楽と豊かにかかわっていきけるようにするために、今後の生活とのかかわりという視点で振り返りをさせるようにする。
まとめ			<ul style="list-style-type: none"> ・ あさのかいやかえりのかいでうたってみたいな。 ・ あそびうたは、ほかにはないかな。 	

5 本 時 (3 / 7)

(1) 目 標

ア リズムを合わせることに関心をもち、進んで活動に取り組むことができる。

イ 動物の動きを思い浮かべてリズムよく体を動かしたり歌い方を工夫したりしながら表現することができる。

(2) 本時の展開に当たって

子どもたちが拍の流れを感じながら想像豊かにリズムよく遊び歌を表現できるように、動物のお面やけんけんぱの輪を使いながら活動に取り組ませる。また、学習の経験を生かして生活に音楽を取り入れる場面について考えることができるように、**まとめの段階で生活に生かす場面の焦点化を図る。**

(3) 実 際

過 程	主 な 学 習 活 動	時間	教師の具体的な働きかけ
課題把握	1 「けんけんぱ」の範唱を聴く。 <ul style="list-style-type: none"> けんけんぱならできるよ。 たのしいかんじだね。 どうぶつがでてきたよ。 	(分) ↑	○ 楽曲のイメージをふくらませることができるようにするために、「体を動かしながら聴いていいよ」や「どんなどうぶつがでてきたかな」などと発問する。 ○ 体を動かすだけではなく、旋律の把握ができるよう、歌うグループや歌に合わせて動くグループなどの形態で活動させる。
課題追求	2 本時の学習について話し合う。 けんけんぱをしながらうたおう。	10 ↓	
旋律把握	3 聴唱による旋律把握をする。 <ul style="list-style-type: none"> 〇〇くんは、うたにあっていね。 たのしくうたうのがいいね。 	↑	○ 付点のリズムもリズムよく歌えるように、リズム打ちや打楽器でのリズム伴奏に合わせて歌う等の活動に取り組ませる。 ○ 歌詞にある動物のイメージを膨らませることができるように映像を提示したり、歌詞にない動物への取組ができるように画像を提示したりする。 ○ 意欲的に取り組むことができるようにペアの子どもを入れ替える等、場の設定を工夫する。 ○ 友達の発表のよさに気付くことができるように、発表の鑑賞から感じ取ったことを鑑賞していた子どもも含めて表現する活動を設定する。 ○ 表現の工夫に着目できるように、「どんな考えで〇〇さんがしたか分かったかな」等の振り返りができるような発問をする。
表現の工夫	4 動物が出てくるところの歌い方について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> どうぶつのまねをしよう。 うさぎだからかわいくしたいな。 ぞうをいれたらおもしろくなりそうだよ。 	30 ↓	
相互発表・鑑賞	5 ペアで動物を決めて歌う。 <ul style="list-style-type: none"> ぼくはかめだからおもくておそくするね。 うさぎはちいさくはやくとぶよ。 	↑	
まとめ	4 相互発表・鑑賞する。 <ul style="list-style-type: none"> ぞうのうたがおそくなってるのがおもしろいね。 りずむがあっているね。 〇〇くんのかんがえがよくわかったよ。 	↓	○ けんけんぱのリズムフレーズを使って学習後も遊ぶことができるように、前時の学習を生かして遊んでいる姿を提示したりどのような場面で生かすことができるか話し合う場を設定したりする。
	5 学習のまとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> けんけんぱをりずむよくできたよ。 どうぶつをかえてうたうのがたのしかったな。 やすみじかんやあさのかいにもやってみたいな。 	5 ↓	